

# 1980年度 秋季研究発表会

1980年度秋季研究発表会が、10月7日、8日、9日(見学会)、東京都調布市の電気通信大学で開催されました。この大会は、同大学の森口繁一教授を実行委員長とする実行委員会で運営されました。以下、その報告です。

## 概 括

今回の特別テーマは「コンピュータとOR」でした。十数年前にも、これに類したテーマがとりあげられたとのことですが、その後の「コンピュータとOR」の発展を考慮し、また電通大という大学の性格を考えて、このテーマが選ばれました。研究発表は、特別テーマに関するものも含めて一般発表99件、研究部会報告を含むペーパー・フェアが12件、そして特別講演が3件と合計114件におよびました。また、大会参加者は、正会員249名、賛助会員42名、学生会員50名、非会員19名、と当初の予想をはるかに上回り、360名に達しました。大会初日(10月7日)には、本部において、理事およびフェローの会議、2日目には、モニター会議と論文誌の編集会議が開かれるなど盛会のうちにその幕を閉じることができました。

## シンポジウム

東京周辺での発表会では、恒例になりましたが、大会に先立つ10月6日には、「ゲーム理論とその応用」と題した第8回シンポジウムが開催されました。ゲーム理論のシンポジウムとしては、日本で初めてとのことで、それだけ関係者の方々の意気込みが強く感じられました。東京工大・鈴木先生の研究室の方々により、準備・運営がなされ、発表件数は8件、参加者は討論者を含めて36名でした。

## 特別講演

第1日目の午前には青山学院大学の鶴沢昌和氏により「コンピュータ・サイエンスとビジネス・データプロセッシング」の講演が行なわれました。「人間の諸活動にともなって生ずる情報(データ)の処理を念頭においた「情報処理教育」のあり方について、氏の体験を通してのお話があり、「ORの対象」と「OR教育のあり方」との関連において、大変興味深い話題でした。

午後は日本ユニパックの小林弘和氏により、「ORにおけるコンピュータの利用技術について」という題目で、

OR作業をサポートする目的でコンピュータに用意されている(されるべき)「道具」についてのお話がありました。「道具」のもとになる算法(処理法)を研究するだけでなく、それを「使いやすいソフトウェア」として、設計し開発していくことも、ORの仕事の重要な一部であると感じさせられた次第です。

2日目は、日立製作所の味村重臣氏による、「これからの経営計画とコンピュータ」の講演でした。御自身の経験をもとに、高度成長時代の現状延長型の拡大計画とは異なった「環境即応型の経営計画システム」について話されたわけですが、聴講者からの質問もあり、非常に活況のある講演でした。

特別講演の会場は、500人以上も収容できる大教室を使用しましたので、「広すぎるのでは？」と心配していましたが、各講演とも多数の御出席を得て、大変盛況でした。

参加者の特別講演に対する期待は多大であり、題目やスピーカの選定をより周到にしなければならないということを痛切に感じました。

## 一般発表

A～Eの5つの発表会場と特別講演の各会場が分散するのをさけるように、また収容人数を考えて、普段は一般教室に使われているA、Bの2つの建物に各会場を配置しました。建物としてはやや古く、日頃の酷使(?)も手伝ってか、少々薄汚れた会場となりましたが、発表者や参加者の方々の熱気には、それをカバーしてあまりあるものがあつたと、実行委員一同胸をなでおろしたものでした。

さて、発表の内訳ですが、特別テーマ7件をはじめとして、数理計画19件、信頼性11件、ゲーム理論7件、シミュレーション、ネットワーク、経営、待ち行列各6件などでした。理論・応用にと多様な報告でしたが、事例研究の発表はまだまだ少ないような気がしました。OR問題の発掘や問題提起の意味を含めて、この関係の発表

が今後増えることを望むとともに、そのための環境づくりをもっとやっていただきたいと思います。

#### ペーパー・フェア

第1日目の15:20~16:20および16:30~17:30と2回に分けて、6件ずつ、計12件の発表が行なわれました。会場の関係（一般会場と同じ建物の3、4階にある定員各77の6教室を使用）で、発表の様子はやや一般発表風の印象でしたが、それでも持ち時間を超過して熱心な議論のくり広げられる室もあり、ペーパー・フェアの特徴は十分発揮されていました。特に、特別テーマに正面からとりくんだP3の会場には、多数の人が集まり率直な意見が活発に交換されていました。

#### 見学会

東京での発表会ということで、その実施に関しては流動的でしたが、一部の会員からの強い要望もあり、研究普及委員会の企画で、10月9日に、電々公社横須賀通信研究所の見学を行ない、参加者は25名でした。

#### 懇親会

大会初日の夕方6時から、学内食堂を会場に、2時間にわたり催され、会員の出席者は60名でした。また、電通大の真板一郎学生部長が参加されました。会は実行委員の藤沢武久氏の司会でなごやかに進行し、松田武彦学会会長、森口繁一実行委員長、真板学生部長が挨拶されました。また、各支部長により各支部の活動状況が報告され、OR研究の拡大進展の様子を知ることができたのではないのでしょうか。さらに、来秋の開催校を代表され

て、筑波大学の渡辺浩氏が、その抱負を語られました。施設も立派で会員も多いので、盛会が期待されま

す。料理や飲物は幾分もの足りない感じでしたが、あちこちで歓談がつづき、時間が足りないほどでした。

#### 反省と謝辞

会場が比較的都心に近く、また好天に恵まれたせいか、最近の大会ではめずらしく多数の御参加をいただきありがとうございました。

今大会の実行委員は8名でしたが、研究普及委員の古林隆氏と学会事務局の方々の御指導と御協力を得て円滑に運営できました。われわれの仕事の大半は、運営マニュアルにしたがって機械的にこなすことができ、たいした苦労は感じませんでした。各委員ではほぼ同等の作業分担ができたのではないかと思います。中心で働かれた藤沢氏は事務局との窓口として、また大学側との交渉でかなりの負担をかけてしまいました。

会場の設営については、あまり問題を残さなかったのではと思いますが、ペーパー・フェア会場は反省させられます。各会場の機能と場所の集中の選択は、常にむづかしいのだと思います。

大会進行のうえでは、必ずしも満足できませんでした。発表者の真摯な態度と、会員の積極的参加により実りある大会にできたのではないかと思います。最後に皆様

に感謝の意を表します。

(電通大、神品光弘、沼田一道、大澤秀雄)

## 秋季大会に参加して

会場は、東京とはいえ、都心から電車で30分位かかり、地理的条件は決して良くはないが、幸にも天候には恵まれた。キャンパス内に残る木々がわずかに武蔵野の面影をしのばせていた。どの発表会場もなかなか盛況で、いつもより参加者は多いように感じられた。

特別テーマ(コンピュータとOR)に関しては、菅野文友氏(岩手大学)によるコンピュータ犯罪の話や山田昇司氏(日立製作所)のOR手法適用上の問題点についての話はいずれも興味深かった。

コンピュータやORは、これからますますわれわれの社会とも深いかかわりをもってくると思われる。その際に克服しなければならない問題点を指摘されたが、解決

策はまだ今後に残されているようである。

特別講演では、鴉沢昌和氏が情報処理教育のあり方について、企業における情報処理業務の実情に言及しながら話された。文科系学生に対するカリキュラムについては、日頃私自身、商学系大学教員として感じていたことを明示されたので共感した次第である。小林弘和氏は、ORとコンピュータ技術による、より高度な意思決定支援システムの可能性について話された。これに関連して味村重巨も経営計画における適用について、モデルを提示しながら話された。ただ、企業秘密を守る必要上止むを得ないのかも知れないが、もっと生々しいデータにもとづく事例をまじえたお話をうかがえたらと感じた。実

用化されている MDS (Management Decision System) の具体的な内容や、経営者の評価に関心をもっていただくからである。

その他各テーマ別の発表は、OHP等を用い親切的な説明をされる方もかなり見受けられた。しかし、専門外の人にも発表内容の主旨が伝わるような説明をしてくれる人が少なかったように思われた。理論ないし解法指向型のテーマに加えて、問題指向型のテーマもかなり多く見受けられた。片方に偏ることなく適当なバランスを保つのが望ましいのではないか。ペーパー・フェアはテーマ別に学生講義室で行なわれたため、少し入りやすかった。前回のように同一会場内を仕切ったブースで行な

たほうがよかった。部会報告では、部会での成果を要約でもよいから印刷物にして配布してくれると有難い。地方にいて部会に参加できない学会員にとっては年2回の発表会だけが接触するチャンスであるから。

懇親会は、7日夕方キャンパス内の食堂で開かれた。実は、私は懇親会に出席するのは初めてであったので少し気おくれしなくてもなかった。出てみると気軽な雰囲気であり、会費分の飲食は十分楽しめ、さらに自分の研究に役立つ情報入手のチャンスがあり、損な投資ではなかった。松田会長や森口大会委員長の話しぶりも、今大会の参加人数の多かったことを反映してか、終始明るかったのが印象的であった。(小樽商科大学 樋口透)

## 会合記録

( ) 内は出席者数

編集委員会	10月3日(金)(10)
支部長会議	10月6日(月)(12)
会計幹事会	10月24日(金)(3)
庶務幹事会	10月29日(水)(5)
研究普及委員会	10月30日(木)(11)
IAOR委員会	10月31日(金)(2)
月例講演会	11月5日(水)(12)
編集委員会	11月7日(金)(11)
表彰委員会	11月11日(火)(6)
理事会	11月28日(金)(16)

## 第4回理事会議題 (55-11-28)

1. 第3回理事会議事録の承認
2. 入退会
3. 定款ならびに細則の一部変更案
4. 昭和55年度秋季研究発表会ならびに第8回シンポジウム報告
5. 昭和56年度春季研究発表会の準備状況
6. 昭和56年度秋季研究発表会について
7. 第1回ORセミナーの報告
8. 研究普及委員会規程について
9. モニター会議報告

## 10. 第1回数理計画シンポジウム論

10. 文集の販売委託のお願いについて
11. OR誌の特集について
12. 視察団派遣について
13. 日本学術会議から派遣を希望する学術関係国際会議および派遣候補者の推薦について
14. 昭和56年度事業計画ならびに予算案の作成について
15. その他

編集後記 あけましておめでとうございます。本年も昨年同様、会員および読者諸氏のご協力、ご支援をお願い申し上げます。▶今編集委員会の任期も本年半ばまで。ここまですればゴールが見えてきたようなものですが、いままで以上気を緩めずまいりたいと思います。いま一番の気掛かりは次に引き継いでくださる方々がすんなり決まるかどうかです。▶新年早々頭の痛む問題ですが、昨今の諸物価の高騰はもちろん今月から値上げの郵便料

などが本誌の財政を直撃、学会の会計年度が始まる3月から購読料をやむなく改訂せざるをえない状況となりました。読者諸氏のご理解とご協力をお願いいたします。▶本号の特集は「カントリー・リスク」。最近の政府や企業などの海外投資の増加にともなって、投資先の国のリスクを正しく評価することはますます重大となっているようです。こういった分野にもORが果たすべき役割が多くあるように思いますが、いかがでしょうか。(M)

# オペレーションズ・リサーチ

昭和56年1月号 第26巻(新シリーズ第6巻) 1号 通巻241号

代表者 松田武彦

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 磐郎

発売所 株式会社 日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 7200円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ